

中学校体育科における学習評価の在り方に関する一考察

A consideration of learning assessment in junior high school physical education

1K10C436-7 森下藍

指導教員 主査 吉永 武史先生 副査 深見 英一郎先生

I. 体育授業における学習評価に関する理論的検討

学習評価とは、単に成績の善し悪しを判断する(評定)だけでなく、教師の児童生徒に対する指導的確かさを図り、それを自らの指導の改善に役立てるものである(宇土, 1981, p. 8)。しかし、一般的に「評価」と「評定」の区別がつけられていないこと、評価を行わない授業者が多いこと、指導したことで評価することが一致しない場合があることが問題としてあげられている(高田・高橋, 2010, pp. 75-81)。まず始めに、これまで学習評価がどのように語られてきたのかを把握するために、学習評価に関連する文献をもとに理論的検討を行った。

教育評価は、学力評価(評定)、学習評価、授業評価と分類されること、また学習評価はその教育評価の中に位置づけられるものであり、評定と区別されるものであることが確認された。我が国における教育評価は、2001(平成13)年に改訂された指導要録によって、戦後から採用されていた「相対評価」に代わり「目標に準拠した評価(絶対評価)」となった。相対評価は、学習者の評定にしかつながらない。しかし、目標に準拠した評価は、学習指導要領に示された目標に照らして子どもたちの実現状況を適切に評価する方法としての意義が認められるものである。つまり、評定のみならず、学習者の学習状況を改善するための視点が出てきたと言える。学習評価の方法は多様であるが、球技の授業における「技能」に関する学習評価の方法として GPAI(グリフィンほか, 1999, p. 199)が注目されている。その理由として、ゲーム中のパフォーマンスそれ自体を評価することであること、ボール非保持者の動きを評価できることなどがあげられる。

以上のように、学習者の学習状況を改善するための学習評価の重要性が明らかになり、その方法論の一つである GPAI を活用することにより真正な評価(オーセンティック・アセスメント)への大きな手がかりを得ることができた。

次に、学習評価を実施可能にするための授業の進め方について検討するために、授業者の評価と分析者による評価の一致度についての検証を試みた。

II. 体育授業における学習評価に関する実証的検討

2013(平成25)年10月中旬から11月中旬にかけて、東京都内の公立中学校、第2学年の1授業クラス(男子29名)を対象にバスケットボールの授業(9時間の単元構成)を実施した。学習評価を実施可能にする授業の進め方を検討し、それを基にした学習

指導プログラムを作成した。そのプログラムを適用した実験授業を行い、授業者と分析者によって「技能」に関する評価を行った。授業者による評価と分析者による評価の結果を比較することで、教師による学習評価のための情報の収集が適切なものであるかどうかについて検証した。結果と考察は以下の通りである。

授業者によるサポートの評価と GPAI を用いたサポートの評価を比較すると、約3分の2が適切に評価をされていることが明らかになった。しかしながら、約3分の1は齟齬がみられた。その主な理由としては、サポート可能なポジションにいなかったにもかかわらず生徒が積極的にプレーしていたことで過大な評価をしていたこと、「態度」などの「技能」以外の観点が技能評価につながってしまっているのではないかということが推察された。また、授業者による評価と分析者による評価とでは、評価基準が明確に一致していなかったことも理由として考えられた。このような齟齬を解消していくためには、授業者と分析者の評価基準をより明確に一致させること、生徒の態度に左右されることなく、技能としての事実を把握し、評価を行っていく必要があるといえる。

III. 摘要

本研究では、授業者による学習評価が有効に機能しているかどうかについて、実際の授業を通して検証を試みた。今後は、より信憑性のある結果を得るためには、さらに実験授業を重ねて多くのデータを収集する必要がある。また、本研究では「技能」の評価が5時間目と9時間目に設定されていたにもかかわらず5時間目のみを対象とした。5時間目と9時間目の双方での「技能」に関する評価について分析することで、より正確な成果が得られるのではないだろうか考える。加えて、評価の観点は「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能」、「知識・理解」の4つが位置づけられているが、本研究では「技能」のみの評価であったことから、学習評価の機能を考慮すれば、すべての観点において評価が実施されなければならない。